

東京トレッキングクラブ

T. T. C. 会 報 2019年1月号

会長：阪本弘二

<http://www.tokyo-trekking-club.jp/>

《 1 月 の 山 行 計 画 》

No. 3, 464 陣馬山（初詣山行） < C > L 五十嵐知也

与瀬神社に今年の安全登山祈願をします。

1月6日（日）高尾発8：10＝8：18相模湖 歩き出しー10分与瀬神社ー1時間10分矢ノ音ー1時間明王峠ー50分陣馬山ー1時間陣馬高原下バス停＝（バス）高尾駅

歩程：4時間10分＋1時間50分……6時間

地図：昭文社“高尾・陣馬”

費用：約2,000円

申し込み：前日までにメールでリーダーへ。

No. 3, 465 グレンデスキー嬢恋 L 飯田隆一

1月15日（火）7：52東京発北陸新幹線「はくたか553号金沢行」＝8：18大宮＝8：59軽井沢9：15発送迎バス＝11：00頃パルコール嬢恋 チェックイン後更衣室で着替えてグレンデへ。半日滑降。宿泊は「パルコール嬢恋リゾートホテル」

1月16日（水）一日滑降し16：30ホテル発のバスで軽井沢駅へ。

費用：軽井沢までの交通費＋11,000円（1泊2食、2日間のリフト券代、軽井沢駅からの送迎費、入湯税を含む。ただしスタンダードツインの場合）

申し込み：1月10日（木）までに電話、FAX、携帯SMSでリーダーへ。

備考：スキーを送る方は下記へ送って下さい。

〒377-1611 群馬県吾妻郡嬭恋村干俣バラキ高原

パルコール嬭恋リゾートホテル TEL0279-96-1166

当日連絡用 TEL 090-5783-8099

No. 3, 466 武蔵関公園から千川上水へ

L 中神琳枝

水辺の散歩を楽しみながら寺社をめぐる

1月20日(日) 9:16 西武新宿発本川越行=9:51 武蔵関 10:00 歩き出し-本立寺-武蔵関公園-天祖若宮八幡宮-関前橋-武蔵野女子学院-境橋-桜橋-武蔵境駅

歩程: 2時間40分+1時間30分……4時間10分 14:10 武蔵境駅に着く。

地図: 2.5万図 “吉祥寺”

費用: 約500円

申し込み: 1月18日(金)までにリーダーへ。

**No. 3, 467 九鬼山 **

L 飯田隆一

1月27日(日) 8:05 豊田発甲府行=8:10 八王子=8:20 高尾=8:53 猿橋9:18(朝日小沢上行バス)=9:36 朝日小沢上 9:40 歩き出し-1時間10分 鈴ガ音峠-30分 桐木差山-2時間 九鬼山-1時間 札金峠-50分 富士急行田野倉駅

歩程: 5時間30分+1時間30分……7時間

地図: 2.5万図 “大月” 昭文社 “高尾・陣馬”

費用: 約3,500円(新宿-猿橋1320円、猿橋-朝日小沢上330円、田野倉-新宿1540円)

申し込み: 1月25日(金)までに電話、FAX, メールでリーダーへ。

備考: 軽アイゼン持参。

《 10月の山行報告 》

No. 3, 441 高水三山 <C>

パーティ：女性10名／男性1名 計11名

10月21日（日）晴。久しぶりの晴天に恵まれ清々しい朝、御嶽駅から沢井駅方面に少し戻り踏切を渡って慈恩寺の横の登山口から登り始め、ひたすら登りが続く。歩き始めて30分程で小タイムを取り息を整えて再び登りにつく。尾根道は良く整備されていて杉木立が端正に立ち並んでいるのを見ると、今の登りでかいた汗が静かに引いていくのを感じる。三基の送電塔を通過して暫らく登る。古くから霊泉と崇められている真名井の井戸があるが、水場は残念なことに今は水量が乏しくなっている。10分程で惣岳山に登頂。ここには杉の巨木に囲まれた青渭神社奥の院が祀られている。ここで少し早目の昼食にしました。ここから短いですが露岩の目立つ岩場を下り南面のゆるやかな稜線を暫らく歩く。亀石を過ぎて急登の岩場を登り展望の良い岩茸石山（793m）に着く。ここは高水三山の最高峰である。北面が開けていて黒山から棒の折山等たくさんの山々が望めます。この日の頂上は大勢の人で賑わっているので中腹で休みを取りそこから頂上へ登り返して展望を楽しんだ方もおりました。再び急下降の後なだらかな稜線を歩き高水山へ登る。この頂上は余り展望が無く一休みして下り、下りた所が常福院真言宗の古刹です。本尊は浪切不動尊を祀っている不動堂でここでは可愛い狛犬が迎えてくれました。山門を右に折れ、尾根の明るい雑木林を過ぎると下山道です。中腹あたりから川の流れを2回程渡り、堰堤の階段を降りた所が下山口で、ここで解散しました。山中には高野箒がわずかに残っており、下山道右斜面は薄ケ原で例年ですと午後の陽にあたり白銀が美しいのですが、今年は台風の影響で荒れはてていたの、声をかけませんでした。なつかしい人達とも出会えて山中は話が弾んでおりました。

御嶽駅 9：10－惣岳山 11：10～45－岩茸石山 12：30～50－高水山 13：05～15
－下山口 14：45－軍畑駅 15：29 (菊地 記)

No. 3, 442 蓼科山

パーティ：女性5名／男性2名 計7名

10月13日（土）晴後曇。週末ごとに台風が来て山行の中止が続いたので、ひやひやしながら山行日を待っていた。やっと行けそうなので、予定した山小屋に宿泊を申し込むと満員と言って断られた。慌ててその下の蓼科山荘に宿泊を変更した。また新宿からバスで蓼科牧場迄行く予定であったがバスは季節的に無くな

り電車で行く事に変更した。佐久平からバスを乗り継ぎ蓼科牧場に着き、スキー場下のテーブルで昼食を取り、ゴンドラの上から歩き出す。自動車道路を2回横切り七合目に着くと、天気は段々と悪くなってきたが降るほどではない。登りのザング坂は石がゴロゴロしていて、それほど急登ではないのに登りにくい。沢山の人が下山してくる。車で来た日帰りの人が多いらしい。蓼科山荘に着き部屋に入った。泊りは19人とか。夕食までの間、一杯やりながら歓談する。夜は寒いと思いついで寝たが暑くて夜中に衣服調節をした。夜の星空は綺麗であった。

御泉水自然園（ゴンドラ上）歩き出し12：30—七合目12：50—蓼科山荘14：40

10月14日（日）曇後小雨。夜中に雨が降ったらしい。朝食後、蓼科山を往復。天気が良くないのでとりあえず天祥寺平迄行きそこで様子を見ることにして出発。天祥寺平の少し手前から細い雨が降って来たので雨具を着る。コース変更して、ここから竜源橋に下る事にした。途中雨は止んだがそのまま下り道路に出て、竜源橋からバスを乗り継ぎ茅野駅に着き解散。皆さんご苦労様でした。

蓼科山荘歩き出し6：40—蓼科山7：10—蓼科山荘7：50 蓼科山荘歩き出し8：05—天祥寺平9：40—竜源橋バス停11：00
（飯田 記）

No. 3, 443 小平霊園から黒目川へ

パーティ：女性2名 計2名

10月14日（日）曇後晴。駅北口から北に歩き小平霊園に入り、人影少ない静かなケヤキ並木を歩き北口の出口を出る。野火止遊歩道を歩き新青梅街道を渡り野火止用水沿いの道に入る。左手に用水のせせらぎを楽しみながら行くと稲荷神社があり参拝。さらに用水沿いを歩くと野火止水車苑がある。整備された苑内にはあずま屋・水車などがあり小広い場所です。休憩をとり先に行くと正面に大きな木。万年橋の大ケヤキ（東村山市天然記念物）で根が用水をまたいで四方八方に伸び、ひときわ高くそびえるケヤキに歩く者の心を打つ何かがある。東に歩き運動公園の看板を見て園内に入る。東村山市立の運動公園で市民のスポーツやリクレーションの場となっています。運動公園を出て公園通りを歩きながら道を尋ね久留米団地を過ぎると出水川に出ます。川に泳ぐカモを見て川に沿う遊歩道を北東に歩き新所沢街道を渡り北に進むと左に氷川神社があり参拝。この先は黒目川にかかる都大橋を渡り遊歩道へ入り湧水を集めて流れも清らかな川に泳ぐカモ・小魚・コイを見ながら遊歩道を進み昼食をとる。住宅や農家の庭先に咲く花々。樹木や花にくわしいYさんにLはいつもお世話に。やがて左に大円寺。広い境内には本堂・観音堂・鐘楼など見るべきものが多く更に松の木（大王松）が天を求めるかのように枝を伸ばす姿と松葉の長さに見とれる。この先も川沿いを歩き前方に西武線のガードが見えてくると駅も近い。

小平駅歩き出し 10:10—小平霊園 10:30~55—稲荷神社 11:15—野火止水車苑
11:20~30—大ケヤキ 11:35~45—東村山運動公園 11:50~12:00—氷川神社 12:
30~50—黒目川湧水点昼食 13:10~40—大円寺 14:15~35—東久留米駅 15:00
(中神 記)

No. 3, 444 行道山 (石尊山) から両崖山 < C >

パーティ: 女性 2 名 / 男性 2 名 計 4 名

10月17日(水)曇り。家を出るときは雨でしたが足利に入ると雲間に太陽。
昼過ぎから曇り。人影は稀。落葉樹の尾根からは里の山並みや足利市街の眺め。
足許は落ち葉の山道、階段、緩い岩場など程よく変化。女性二人の足取りは揺る
ぎなく、想定より1時間も早く織姫神社着。足利市駅へはバスを待たずに徒歩で。
紅葉はまだ先。『歩くだけで楽しい』山行でした。

行道山バス停 8:45—浄因寺 9:20—石尊山山頂 10:00—毘沙門天 10:50—両
崖山山頂 12:40—織姫神社 13:50—足利市駅 14:20 (安藤 記)

No. 3, 445 ネズミサス尾根~六ツ石山~ハンノ木尾根 < B >

パーティ: 女性 2 名 / 男性 3 名 計 5 名

10月18日(木)曇。鷹ノ巣山への登山道に入り巳ノ戸橋を渡った。以前あつ
た5m程の木橋は朽ち果てて通れず岩づたいに飛んで沢を渡った。とりつきの急
登はザレて木も少ないので女性達のために約10mのロープを張って安全を期した。
尾根末端に至るが、急登が続く。ネズミサス尾根は標高550mから1,500mまでの
950mの直登である。1,000m地点で遅れぎみのメンバーが脚をつり薬を飲んでゆ
っくり登った。再度薬を飲んでやっと石尾根に到着した。

石尾根を東に進み将門馬場を通過した。ここはタル沢尾根への下降点である。
更に東へ進み六ツ石山へ向かったがメンバーの体調は回復せず、かなりの時間が
かかった。

六ツ石山の山頂にはこれまで無かった立派な山名石碑が立てられていた。何時
立てたかの記載もなく立派すぎて野趣を殺ぐ。赤字なのに近頃無駄なものばかり
目につく。ガスが出て山頂からの眺望はない。今日はハンノキ尾根は無理と判断
し、一般道を真直ぐに水根へ下りることにした。この道は急だがハンノキ尾根の
半分以下の時間で下りられる。それでもバス停に着いたら16:30であった。この
日の日没は17:00であった。

東日原バス停 8:30—739m点 9:50—1,000m地点 11:00—カラ沢尾根合流点
(1350m) 12:00—石尾根 13:00—六ツ石山頂 14:10—トオノクボ 15:00—風ノ

No. 3, 446 菰釣山 < B >

パーティ：女性3名／男性1名 計4名

10月20日(土) 曇後雨。富士急線富士山駅からタクシーで山伏峠へ。登り口は倒木と大雨で流されてきた大石で埋まっている。手前の登れそうな所から登り1268m pで休憩。女性が2人現れた。沢登りとの事。このピークから大棚の頭までは登山者が少ないのか藪漕ぎをすることになった。大棚ノ頭で先ほどの女性たちが身支度をしていた。明らかに2人とも山のベテランといったところ。沢靴を履きつぶしたとかで、新しい沢靴を履き始めていた。ここから南東側の沢を下り、また別の沢を詰めて縦走路に出るとの事。我々は尾根に行く。道が良いので安心して歩けるが立て続けに襲った風台風の影響で大木が倒されているので、跨いだり潜ったり回り道をしたりと時間が掛かった。石保土山、石沢ノ頭、縦の木沢ノ頭、油沢ノ頭といくつもピークを上り下りして菰釣山に着いた。太陽パネルが設置され気象情報を送っているようだ。菰釣避難小屋は相変わらず綺麗であった。ブナの乗越から左に曲がり三ヶ瀬川の支流に出た。沢は今年の雨台風のせい非常に荒れているので赤布を探しながらくだった。ゲートを過ぎると長い林道歩きとなったが石がゴロゴロして歩いて歩きにくい。道志の森キャンプ場では家族連れや友達同士のテントが多く張ってあった。道の駅道志に着くやいなや雨となった。タクシーを手配したが何社に電話しても車が無いと言って断られ、やっと決まったタクシーで富士山駅に出て帰宅の途のついた。タクシー代が高くなり参加者の皆さんにご迷惑をお掛けしました。

山伏峠歩き出し 9:25—大棚ノ頭 11:10—石保土山 10:45—石沢ノ頭 11:20—(昼食 11:35~12:00)—縦の木沢ノ頭 12:10—油沢ノ頭 12:25—ブナの丸 12:50—菰釣山 13:15~25—ブナの乗越 13:50—ゲート 14:30—道の駅道志 16:00
(飯田 記)

No. 3, 447 天平尾根から三条の湯・雲取山へ < B >

27日が雨天予報だったので、1日順延しました。2日間とも好天に恵まれ、感激するような錦秋を楽しめました。

パーティ：女性7名／男性2名 計9名

10月28日(日) 晴。親川のバス停からちょっと戻り天平尾根にとりつきました。すぐに天平尾根通しではなく、北東斜面に点在する廃村を結ぶ道になります。途中で斜面をトラバース気味に登り尾根に合流。ここはきれいな赤松の林でした。さらに落葉松林。そしていよいよ紅葉真っ盛りの自然林に突入。参加者全員あま

りの美しさにただただ感激。サオラ峠（道標はサヲウラ峠の記載）からは良く整備された等高線沿いの道が三条の湯まで続きます。三条の湯の風呂でほっとし明日の英気を養いました。そして夕食後、小屋番がアボリジニの笛（といってもとても大きい筒です）を吹いてくれました。珍しい音を聞くことができました。

9 : 30 親川登山口ー(休 25 分)ー12 : 15~35丹波^{たば でんでい}天平ー13 : 35~45 サオラ峠ー(休 10 分)ー16 : 00 三条の湯

10 月 29 日 (月) 晴。今日も雲ひとつない快晴の下、またまた素晴らしい紅葉を楽しみ、また七ツ石山までは白い雪帽子をかぶった富士山が私達と一緒に歩いてくれました。七ツ石山からの下り 30 分ほどは歩きにくい道。その後は歩きやすくなりましたが、長〜い道でやっとの思いで鴨沢のバス停に着きました。皆さんお疲れ様でした。

6 : 10 三条の湯ー(休 20 分)ー9 : 15~25 三条タルミー(休 5 分)ー10 : 20~40 雲取山ー(休 20 分)ー12:35~50 七ツ石山ー(休 5 分)ー14:03 堂所ー(休 15 分)ー16 : 10 鴨沢バス停 (瀬川記)

No. 3, 448 地蔵堂から金時山 < C >

パーティ：女性 6 名 / 男性 2 名 計 8 名

10 月 31 日 (水) 曇り。往路のバスからは富士山がくっきり。夕日ノ滝までは陽射し。逆光のため朝日ノ滝状。人影は、先に行く我々と同年輩の 4 人連れ、およびトレイルラン数人程度。樹林帯のなか爽やかな空気に恵まれリラックス。一行は山のベテランなので皆の判断でタイミングよく休憩。猪鼻砦跡では富士の広大な裾野が眼下に拡がり、山腹になびく雲もその絶景を少しも損なわず。金時山山頂への急登でお一人が足に痛み。瀬下氏の介添えで程なく登頂。確保できた大テーブルで揃って昼食。予定のバスに間に合わなくなるので談笑に強制介入。矢倉沢峠での休憩を経て仙石バス停へ。紅葉には少し早かったです。

地蔵堂 9 : 30ー夕日ノ滝 9 : 55ー最初の沢出合い 10 : 20ー猪鼻砦跡 11 : 45ー金時山山頂 12 : 35ー昼食終了 13 : 25ー矢倉沢峠 14 : 15ー仙石バス停 14 : 50

2 年前の単独行では地蔵堂 5 : 35ー猪鼻砦跡 7 : 00 (1 時間 25 分、今回 2 時間 15 分)。少し開きが。皆さんを案内するのに不安材料を除くため、予め歩いたことのある (当然です) 自分の歩行時間を記していますが、休憩時間を考慮しても今回はズレが想定より大きかったです。(安藤 記)

No. 3, 449 石塔尾根～国師ヶ岳 < A >

パーティ：女性2名／男性2名 計4名

10月29日(月)快晴。前夜のタクシー会社の仮眠所の状態が良好とは云えず、睡眠不足であったことと、想像を超える倒木の山で登行は困難を極めた。

朝、西沢溪谷ゲートでタクシーを下り、運転手に15～16時頃大弛峠へ迎えに来てもらうが、一般道に出たら携帯が通じるので到着予定時刻を電話することを確認した。迫力満点の鶴冠尾根の岩頭を眺めながら二俣吊橋を渡り、石塔尾根にとりついた。やたらに多い赤テープに導かれ快適に登り1,648m点の岩場に着いた。ここには立派な鎖がかけられ我々は岩場の上で眺望を楽しんだ。ここまではある程度、おとずれる人がいる感じであった。この岩場に戻り左側をまいて進むと様相は一変した。テープはまったく無くなり、藪と倒木が多くなりピッチが上らない。2,086m三角点に到着したが、既に12時をまわっていた。休憩の後2,115m点まではなだらかだから頑張ろうと歩き出したが、ものすごい倒木と藪で進路はしばしばさげられた。古い倒木には苔がびっしりつき、その上に最近の台風で倒れた新しい木が重っている。ピークを2つ越えてやっと2,115m点に至ったが13時45分であった。ここから150m下ると古い林道だが、1時間以上かかった。15時前なのに林道の水溜りはうす氷がはっていた。石塔尾根を更に登るのは断念した。

古い林道を南に20分程歩き西沢林道の分岐に着き、ここでビバークし明日ここから破線ではあるが天狗尾根という登山道を登ることにした。昭文社で2時間30分とあるが、石頭尾根よりはましと判断した。林道の少し下の風のない所にツェルトを2張り、ビバーク体勢を整えていたら偶然通りかかった害獣駆除の軽トラックが止り声をかけてくれた。鹿撃ちの後、1時間後に再び来てくれ我々は荷台に乗り、柳平バス停まで送ってもらった。感謝感激。携帯が通じることを確認しお礼を云い、あとはタクシー会社に電話し20分後にはタクシーが来た。聞くと大弛峠で16時過ぎから1時間も待っていたそうだ。運転手はしきりに無事を喜んでくれた。

今回の山行には、体力その他の理由で2名の参加希望者をお断りしたが、これはとても良い判断だったと思っています。

西沢溪谷林道ゲート6：15—二俣吊橋とりつき点7：00—1,548m点の岩場9：15～30—2,086m点12：20～35—2,115m点13：45—古い林道(鶏冠林道)14：55—西沢林道分岐(ビバーク予定地)15：15。16：30軽トラック乗車＝17：10柳平バス停(タクシー)17：30＝18：15塩山駅 (五十嵐 記)

《 お 知 ら せ 》

☆ 2月の山行予告

2月7日（木）～9日（土） スキー志賀高原 L佐藤ツヤ子

☆ 1月の役員会は1月9日（水）練馬区役所 1905室 17：00～19：00です。

☆ 2月の山行計画及び山行報告を11月30日（木）までに飯田まで提出して下さい。